

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立保々小学校

校長 桂山 幸和

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- (1) 地域とともにある学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために、協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進します。
- (2) 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いを反映した学校づくりを推進します。
- (3) 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域の方に学ぶ・人がつながる学校づくり」の推進を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例



5年生田植え



1・2年生芋掘り



3年生枝豆の栽培



5年生稲刈り



3年生大豆の収穫



5年生糲摺り見学

例年、農業体験部会の委員さんが所属する「保々の自然に親しむ会」の方々や地域で農業に従事されている農商工連携アドバイザーの方にご協力いただき、米作りやさつまいもの苗付けと芋掘り、大豆や枝豆、野菜の栽培の体験活動を行っています。今年度は感染症拡大によって昨年度できなかった稲刈りや大豆の収穫体験、豆腐・きな粉づくり、収穫感謝祭にも取り組むことができました。子どもたちは保々地区の農業や豊かな自然を体感するとともに、農業振興や自然保護に携わる地域の方々の願いや思いを知り、自分の住む地域や自然を大切にしようとする生き方づくりをすすめてきました。

また、図書ボランティア部会の方々から、週に1度、朝の始業前の15分間、読み聞かせをしていただきました。図書ボランティアの方々には、大型絵本や英語の本など、子どもたちの興味に応じた本を選んでいただき、読み聞かせをしていただきました。こちらも感染症拡大の影響で、実施できない期間もありましたが、子どもたちの読書に対する意欲付けにつながるものとなりました。



環境部会では、運動会前に、保護者へも呼びかけ、運動場の除草作業を行いました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

学校評価児童アンケート「学校は楽しいですか」は肯定的な回答率は88.6%（昨年度90.5%）と少し減少しました。また、「いろいろなことをやってみたいという気持ちがありますか」は肯定的な回答が89.9%（昨年度90.1%）と約9割の児童が向上心を持っていることが伺えました。様々な体験活動を毎年継続的に取り組んできたことが子どもたちの挑戦する気持ちにつながっていることと思われます。また、「読書をすることが好きですか」は肯定的な回答が66.9%（昨年度68.6%）と昨年度より若干低くなりましたが、図書館まつりや図書の授業では進んで読書に取り組む姿が見られています。図書ボランティアさんによる読み聞かせの効果もあり、今後も子どもたちが本と触れ合う機会を増やしていき、読書好きを育てていくことを継続していきます。

また、学校評価保護者アンケート「学校は保護者の方や地域の方が、授業に参加する機会を設けていると思いますか」では、肯定的な回答が91.1%（昨年度89.3%）と増加傾向にあります。感染症拡大防止による授業参観や運動会の人数制限や内容変更など、様々な制限が加えられる中で高い結果を維持しています。

3 今後に向けて

学校の感染症拡大防止対策についてご理解をいただきながら、可能な範囲で授業参観や学校行事、体験活動を実施しました。

今年度は昨年度できなかった除草作業に、PTAへも参加を呼びかけ、学校の環境整備に努めていただきました。

委員の方に授業や学校生活の様子、保々のつどい（人権学習の発表の場）を参観していただき、子どもたちの姿を褒めていただいたり、6年生の社会と理科を担当が入替って授業をする教科担任制に対するご意見や一人一台端末を使っている授業に対するご意見もうかがうことができました。また、保々のつどいでの子どもたちの様子からは、学年が上がるに従っての成長の部分や、これまでの人権学習が充実したものであり、それを発信、表現していく場であるといった意見をいただきました。

来年度以降も、感染症への対策についての対応を整理しながら活動や学習を充実させ、地域から学ぶ機会を作っていきたいと考えています。また、小学校での四日市版コミュニティスクールの組織や取り組みを基本にして、小中が一体となって保々地区の方々と一緒に子どもたちの教育環境条件の整備等を進めていくことを確認し合いました。